

令和3年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

P T A名	静岡県立清水特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立清水特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	267人

1. 使用状況

寄贈物品名	プレーポートワンダー(滑り台)
使用学年及び人数	主に小学部児童94人
使用頻度	ほぼ毎日
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休みの外遊びで使用しています。 ・低学年の遊びの指導で、アスレチック遊び(身体を大きく使った運動の機会、順番を待つことを学ぶ機会等のねらい)で使用しています。
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は、学習として近隣の公園に遊びに行くことがあり、遊具の遊び方や順番待ち等を学ぶ事前学習で活用しています。 ・階段やネットなど、様々な方法で登ることができるので、身体を大きく使ったり、握る、支えるなどの運動ができたりしています。 ・入学してすぐの児童も、カラフルな遊具に興味を示し、抵抗なく遊ぶことができている。遊んでいるうちに、友達の様子を見たり、友達に声をかけたりする様子が自然と出ています。また、休み時間には様々な学部の児童生徒が使用するため、自然と交流が生まれ、下学年の児童に譲ったりする姿が見られたりしています。
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> ・どの学部学年でも使用できるため、休み時間や授業の場面で効果的に活用したいです。特に、体育での、登る、握る、体を支える等の課題に対する運動として考えられるため、活用していきます。 ・子どもたちだけではなく、教師も一緒に活動し、楽しい時間を共有しながら関係づくりをすることができると考えています。また、暗黙のルール、譲り合い、思いやり等、社会性を学ぶ機会にもなるため、子どもたちは楽しみながら、教師は指導の好機と捉えて関わっていきたいと思います。
その他希望や所感など	

2. 活用の様子

- ・小学部低学年の「遊びの指導」での活動で、使用しました。繰り返し活動することで、自分から生き生きと遊ぶ姿が多く見られました。大きく体を使い、様々な動きにチャレンジできました。
＜小学部1年生 入学して間もない頃の様子＞



- ・色々な学年が関わりながら遊ぶ休み時間。順番を待ったり、登る様子を見たりして、思い思いに楽しんでいる様子が見られます。



- ・小学部低学年の体育で、登る、自分の身体を支える、手と足をバランスよく使う、握る、踏ん張る等のねらいで活動をしています。握る、支える等の力は、鉄棒の活動にも生きてくるため、楽しみながら何度も取り組み、力を付けています。　　＜小学部2年生 体育＞

